

西堂寺六角堂

(さいどうじろっかくどう)



759-3113 山口県萩市大字
江崎 1281



【紹介文】

[宗派]: 曹洞宗 [本尊]: 薬師如来 [本寺]: 須佐町 大蘆寺

[本堂]: 六角半～五間、明治九年(1876)再建

[地蔵堂]: 六角堂ともいい、元禄九年(1696)に四角から六角円堂に再建される。

[鐘楼門]: 三間～二間半 建立年月日不明、両脇の仁王像の作成年代不明

[沿革]: 開基は妙清尼といい、鍋山長者の妻で、応永年間(1394～1428)に、江崎湾の海岸から出現した地蔵尊を湾内の岩内の岩上に御堂を建てそこへ安置したことから始まり、はじめは濟度寺(さいどじ)といていたが、いつのころからか西堂寺(さいどうじ)とよみ書きするようになった。地蔵堂は六角堂とも呼ばれ、当初から六角であったかどうか、確実な資料に欠ける。「防長寺社由来」の寛保元年(1741)九月付けに、

一、本堂三間半六角三間半之廻り縁外作

一、寺三間半四間、仏壇ノ前四畳半茶ノ間四畳半、半間之縁長三間余、同勝手長四畳、外二押入有之候事

とあり、当時は本堂が即地蔵堂であり、このことから判断して元禄九年の再建時に、地蔵堂(本堂)が六角円堂に仕立てられたと考えられる。開山は、大蘆寺六世傑山文英大和尚(元禄六年五月二三日寂)である。

山口県教育委員会は、昭和 56 年(1981)12 月 11 日西堂寺六角堂を、山口県指定有形文化財(建造物)に指定した。そして昭和 58,59 年度の 2 カ年にわたり、山口県と田万川町の補助を受けて、一部解体修理工事を行った。往時、毎年 9 月 24 日に地蔵まつりが行われていたが、現在では 8 月 24、25 日の 2 日間、町内外から多数の参拝者でにぎわいをみせている。六角堂の隣の現在の本堂は、嘉永年間(1848～1853)に火災により焼失したため、明治 9 年(1876)に再建し現在に至っているものである。

(田万川町史より抜粋)